

区西北部ブロック
第2回コロナ禍における
OT情報交換会まとめ資料

はじめに

- 本資料はR3.2.5に企画した「第2回コロナ禍におけるOT情報交換会」に参加者の「施設での取り組み」「工夫していること」等の意見をまとめました。
 - 大項目として各施設での
 - ①病院・生活期施設での感染対策・取り組み
 - ②実習生の受け入れについて
 - ③その他
- 各項目事にスライドにまとめてあります。

病院・施設での 感染対策・取り組み

1.病院の取り組み①

急性期病棟

- ・マスク・アイシールド・手袋着用。職員1人1人が手指消毒液を持ち歩くようにしている。物品は都度消毒。患者はマスク着用。リハビリは階ごとに分けている。
- ・コロナ陽性者で治療後の方は、個室で隔離。個室でリハビリを実施している。主治医の指示のもとN95マスク・エプロン等のフル防護で介入をしている。
- ・コロナ患者は現状、間接介入中。入院時に自主練習プリント配布。看護師に状況を聞いて、看護師に介助・ADLの介助方法等のポイントを伝え実施している。今後の課題として、高齢者が多く介助量が多いため直接介入も検討中。

1.病院の取り組み②

回復期病棟

- 病院のからの出入りはチェック項目を持って行っている.
- 入院は午前PCR検査実施. 陰性であれば入院. 入院時のリハ評価は対応できる職員の人数を限定し,2~3日入院後から1週間程度は厳格に行っている.
- 集団リハは4人までとし,風船バレーや机上の作業は距離を保ちながら行っている.
- 食事場面への介入は,マスク・フェイスシールド・ガウン着用.
- 外出禁止にしていたが,院内の感染対策委員会にて外出範囲を拡大. 出かけるときは場所を特定するようにしている.

1.病院の取り組み③

精神科病棟

- 感染対策として全員にマスクの着用は難しい.
- OT室の利用は外来のみに限定している. 他の患者さんは病棟を閉鎖して対応.
- 音楽療法や回想法ミーティングは飛沫の恐れがあるので中止。集団リハビリはソーシャルディスタンスを保ちながら行っているが,集団の凝集性が高いものはできない.

1.病院の取り組み④

面会・家屋調査・家族指導の工夫

- ・2度目の緊急事態宣言後は15分程のオンライン面会を実施している。
- ・退院時の担当者会議ができないため、書面かつ動画で行うようにしている。
- ・リモートでの家族指導を家族に協力してもらっている。通信費は、家族負担(LINEで映像など)
また、入院時、ご家族に通信端末として使用できるアプリを確認。家族の使用できるアプリで
リモート面会や家族指導を実施している。

2.生活期施設での取り組み①

通所リハビリ（身体領域）

- ・全職員、アルコール消毒・手洗い・アイガード実施。利用者さんは、検温後の来所（利用時以外も。同居者も体調管理）、施設内ではマスクの着用。
- ・感染対策として換気を行っているが、冬場は、防寒対策とのせめぎあい（防寒具を持参してもらうよう促しをしているが、クレーム等あり難しい）。
- ・換気は窓を少しだけ開けて頻回に行うようにして、対策をしている。

2.生活期施設での取り組み②

訪問リハ

- 出勤前とお昼に検温,毎日の健康チェックシートを記入し事務提出している.
- 訪問時は,手洗い・手指消毒,マスク・フェイスシールドを着用. 訪問開始と終了時に3分間換気をお願いしている.
- 各個人に消毒用アルコールを支給し,1日ごとにアルコール使用量を計測し数値化することで,消毒への意識を高めるようにしている.
- STはリハビリ中に飛沫が飛んでしまうことが懸念されるため,対象利用者さんには各利用者さんに個人用のフェイスシールド支給している.

2.生活期施設での取り組み②

通所C型

- ・感染予防意識を高めるために,利用者対象に消毒やソーシャルディスタンスについてのミニ講座を行っている.
- ・フレイル予防のために厚労省の作成した「地域いきいき集まろう通いの場」資料を参考にしている.

訪問C型

- ・双方マスク・検温で継続。フレイルチェックの滑舌検査しているが,区民の中には感染対策に不安を訴える人もいるため,許容する人のみ.

2.生活期施設での取り組み④

地域ケア会議への参加について

- ・地域ケア会議はなるべく集まって行う事を継続している.
- ・緊急事態宣言前(令和2年11月まで)はパーテーション等の感染対策をしながら集まって会議をしていたが,緊急事態宣言後はWEBでの参加や資料を事前に確認し書面でのコメントを提出する形を選べるようにして継続している.
- ・包括は対面じゃないと共有できないという話がある. オンラインにも慣れていないので難しいという話がでている.

実習生について

1.実習生受け入れについて①(病院)

回復期病棟

- 実習開始2週間前から行動記録を記載してもらっている.
- 今年度はお断りしている. 来年度以降,学校の実習生は受け入れられるよう準備していく.
受け入れに関する詳細な感染対策は検討中.
- 実習生受け入れは継続している. 体温は日々記載,院内の基準で実習生の受け入れが出来るレベルが定められている. レベルが上がれば実習受け入れ中止していくことを,学校側に了承してもらっている.

1. 実習生受け入れについて②(病院)

精神科領域

- 実習受け入れは継続しているが、緊急事態宣言後は受け入れていない。
- 事例として、学生一人が熱発。PCR陰性だったが、その後の、対応が大変だった。
バイザー会議に出席した際に、学生のアルバイトで接客業は止めていると説明は受けたが、その他のアルバイトは実施しているよう。感染リスクはなるべく減らせるよう制限して欲しい。
- 次年度以降の実習生受け入れについてはわからない。現在はデイケアで実習を受け入れているが、病棟には出入りを制限している。

1.実習生受け入れについて③(学校側)

専門学校

- 2月の緊急事態宣言が出るまでは実習を受け入れてもらえていたが,緊急事態宣言の期間次第で実習の開始を中断,延期となる可能性がある.
- 身体領域は実習生の評価・治療介入時間は15分以内.
- 精神科はデイケアでの実習が中心となっている.
- 養成校として難渋している点として,2020年度カリキュラムより「地域リハ実習」が履修項目となっているがコロナ禍で受け入れて頂くことが難しい現状があり,学校側としては困っている. 学校側も特別措置の対応,指示を待っている状態である.

その他

1. 職員のメンタルヘルスについて

職場内での雑談が制限しているため職場内で工夫していることはあるか

- ・感染予防のために職場内でも雑談を制限している。その為、職員が息抜きを出来る場がなくなっている。平時は、業務連絡用に使用していたSNSツールを雑談の場として活用しストレス発散の場として用いている。
- ・職場内研修として100人位の勉強会を行っていたが、研修会を動画配信に変更したが、「集まりたい」と意見もあり5～6人の集団に分けて会を企画。ソーシャルディスタンスの観点で個人の価値観などもあり、動画配信での研修に戻った。
- ・施設側の福利厚生として、忘年会や新年会できないため、新年会の代わりに豪華なお弁当が支給。事務所でドミノピザ「無料ピザで地域支援」とってもらうなど工夫をしてもらっている。

2. コロナウィルス感染者対応施設

勤務施設でコロナウィルス陽性者が出てしまった事例

- ・初めてコロナ陽性者が出た後、発熱前に近くで食事をしていた入居者様に感染が広がる.
- ・認知症があり、救急搬送や病院での検査時に拒否するなど、問題がありスムーズな発見に至らず. 施設内での療養期間が長引く.
- ・施設内に十分な防護具はなく、隔離対応中に職員に感染が広がる.
- ・検査結果は陰性であるが、体調不良になる方は続出し完全収束までに2ヶ月程の期間を要した.

おわり

「第2回コロナ禍におけるOT情報交換会」参加者の皆様から頂いた意見を集約させて頂きました。
各施設での取り組みや個人の意見も含まれているのでご理解ご了承下さい。

東京都作業療法士会HPにもコロナ対策取り組み事例集が掲載されています。
ご活用して下さい！（URL：<https://tokyo-ot.com/19987.html>）

その他、区西北部ブロックお問い合わせは下記アドレスからご連絡下さい！

区西北部ブロックメールアドレス URL：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区西北部ブロックFacebook URL：<https://onl.tw/yg6hp8h>